生活科学研究所の進展とその概要

山　口　　功
見　藤　妙　子

東京家政大学の開学に当り，その附属施設として生活学科研究所と被服科学研究所が開設され，それぞれの分野で各研究室中心に教員の研究活動をささえることとなった。その当時は教員が研究所の研究員ということになっていた。昭和47年からは生活科学研究所に一本化され，同年８月に研究所専攻生として石久保鈴子が２年間米国サウスカロライナ州ウインスロップ大学へ衣料学を研究テーマとして留学し，同大学からジェーン・シャーリが派遣されてきたが，彼女は本学での研修を半ばにして帰国する事情をもっていた。また昭和48年４月には研究所専攻生として李美雲が本学卒業後入所し，五ケ月間仙草成分の研究（指導：草間）を行い一身上の都合でその後退所した。ついで昭和48年９月にジェーン・スチーブンスが，日本語，日本学，家政学一般についての研修生として派遣されて来た。昭和49年９月には研究所研修生畑山富子が２年間同大学で食品学を中心に研究を行い，その間，ローラ・フォードが派遣されて来た。この国際交流はウインスロップ大学の交流予算削減のため，その後は止むなく打切りとなった。昭和48年４月から１年間新しい構想のもとに山下所長(当時)以下が，ついで津郷所長（当時）以下が生活科学研究所の運営にあたったが，この時の研究所はウインスロップ大学と本学との学生国際交流計画に基づいて財団法人日本国際教育協会の学生国際交流制度の受皿として機能していた。なお，この計画は有光学長当時に，三木学監（当時）を委員長とする国際交流委員会において，検討し準備されていたものである。

研究所研修生の本格的な受入れについては，まず昭和50年４月に東京家政大学生活科学研究所研修生規程を整備し，これまでの東京家政大学生活科学研究所規則と相まって，研修生指導体制を整え，翌年の昭和51年４月から津郷所長のもとで研修生を順次受入れた。その後，仲所長，金平所長と続き昭和61年４月より所長は家政学部長がその任にあたることとなり，現在，木曽山所長のもとで，研究所のより一層の発展を期している。

1）　昭和51年４月からの研修テーマと就職先

入所年度	修了年度	氏　　名	研修テーマ（指導教員）	就　職　先
51	52	神崎　ひろ子	NH_3-PO_5-H_2O 系溶解度（秋山）	
	52	長塚　こずえ	布の素材と造形（木曽山）	本学服飾美術科実験助手
		松重　　明子	乳幼児の人間関係―交遊関係を中心として―（宮崎）	結婚のため退所
52	53	山口　　葉子	高分子フィルムによる漂白効果の検討(片山)	繊維工業試験所（行田）
53	54	草間　みち子	女子衣服変遷にみる袖の形態について(藤本)	敬愛高校数学教諭（千葉）
	54	山崎　智恵子	乳幼児の栄養に関する統計学的研究(宇留野)	
54	55	松村　　和子	リン酸アンモニウムの加熱変化（秋山）	エーテーコーポレーション（貿易会社）
		渡辺　美智子	食品に含まれるポリフェノールと含窒素有機化合物から生成する有色物質について(草間)	他大学院受験準備のため退所

55	56	押井　由子 中里　純江	窯芸，作陶及び釉薬の研究（宇野・高橋） 窯芸，作陶及び釉薬の研究（宇野・高橋）	窯芸教室経営 窯芸教室経営
56	57	居駒　美奈子 清水　由未子 加藤　圭子 鈴木　容子	手織りによる服地について（水町） 手織りによる布地について（水町） 作陶及び練り込み技法と色素地についての研究（宇野・高橋） 平面構成における体型・年令に適した寸法と着装効果（高月）	国本学院高校講師就職のため退所 養護学校非常勤講師 作陶中（旧姓下山）
57	58	相馬　時子 星　知子 荒井　瑞恵	染料の成分解性に関する研究（片山） 食文化の発達と健康の問題に関する研究―諸外国及び日本における食文化と食生活について―（宇留野） 江戸庶民の服飾と美意識について（藤本）	家事従事（旧姓飯本） 私立聖ドミニコ学園家庭科教諭（主任） 画廊勤務（旧姓吉野）
58	59	栗原　敦子 土居　慶子	子どもの発達とその教育的課題―デューイの発達観と教育理論に関連して―（川瀬） ―茶碗― その名称の由来と分類の根拠（宇野・高橋）	小学校教諭 骨董屋勤務
59	60	大澤　節子 高橋　尚子 栃沢　由紀子 山本　洋子	油絵作品の追究（酒匂） 幼児の被服における関心（宮崎） 絵画　心証風景（イメージの追究と表現）（酒匂） 人間「関係」改善・促進へのカウンセリング的アプローチ（増田）	幼稚園教諭 本学カウンセリング室勤務
60	61	岡田　美佐穏 対馬　啓子	作陶―器の用と美―（宇野・高橋） 織物―ダマスク織によるタピストリー―（水町）	附属中非常勤教諭 宮岡撚糸勤務

2）研修生の作品展開催

S 55. 12. 15～20	はまのや画廊（銀座）	二陶展	押井　由子・中里　純江
S 56. 12.　8～13	いすず画廊（銀座）	〃	〃　〃
S 56. 10.　5～10	中島ギャラリー（銀座）	Ceramic & Weaving 三人展	下山　圭子

生活科学研究所　運営委員

年　度	氏　　名
昭和48年度	所　　長：山下俊郎 児童学研究部長：山下俊郎 栄養学研究部長：平田政雄 服飾美術学研究部長：高橋　剛 所　　員（兼任）：大瀧ミドリ 事　務　長：木村正己
昭和49年度	所　　長：津郷友吉 児童学研究部長：堀内康人 栄養学研究部長：草間正男

〃	服飾美術学研究部長：高　橋　　剛 所　　員（専任）：大　瀧　ミドリ （兼任）：藤　本　や　す （兼任）：白　鳥　つや子 事　　務　　長：木　村　正　己
昭和50年度	所　　長：津　郷　友　吉 児童学研究部長：堀　内　康　人 栄養学研究部長：草　間　正　男 服飾美術学研究部長：高　橋　　剛 所　　員（専任）：大　瀧　ミドリ （兼任）：藤　本　や　す （兼任）：白　鳥　つや子 事　　務　　長：木　村　正　己
昭和51年度	所　　長：津　郷　友　吉 児童学研究部長：堀　内　康　人 栄養学研究部長：草　間　正　男 服飾美術学研究部長：高　橋　　剛 所　　員（専任）：大　瀧　ミドリ （兼任）：藤　本　や　す （兼任）：白　鳥　つや子 事　　務　　長：木　村　正　己 書　　記（兼任）：藤　間　寿　子
昭和52年度	所　　長：津　郷　友　吉 児童学研究部長：堀　内　康　人 栄養学研究部長：草　間　正　男 服飾美術学研究部長：高　橋　　剛 所　　員（専任）：大　瀧　ミドリ （兼任）：藤　本　や　す （兼任）：白　鳥　つや子 事　　務　　長：秋　山　　尭 書　　記（兼任）：藤　間　寿　子
昭和53年度	長　　所：津　郷　友　吉 児童学研究部長：堀　内　康　人 栄養学研究部長：津　郷　友　吉 服飾美術学研究部長：高　橋　　剛 所　　員（専任）：宇　高　京　子 （兼任）：藤　本　や　す （兼任）：宮　崎　照　子 事　　務　　長：秋　山　　尭 書　記　補（専任）：木　村　千　鶴
昭和54年度	所　　長：津　郷　友　吉 児童学研究部長：堀　内　康　人 栄養学研究部長：津　郷　友　吉 服飾美術学研究部長：高　橋　　剛

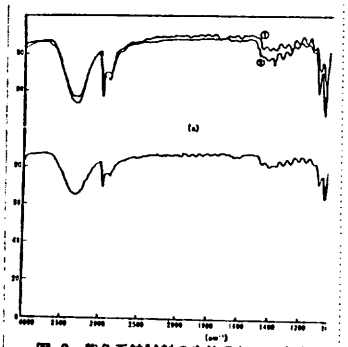
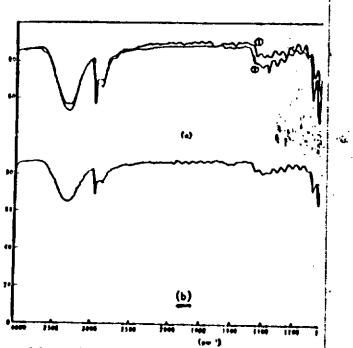
生活科学研究所の進展とその概要

年　度	氏　　名
〃	所　　員（専任）：宇　高　京　子 （兼任）：藤　本　や　す （兼任）：宮　崎　照　子 事　務　長：山　口　　功 書　記　補（専任）：木　村　千　鶴
昭和55年度	所　　長：津　郷　友　吉 児童学研究部長：山　内　昭　道 栄養学研究部長：草　間　正　男 服飾美術学研究部長：仲　　三　郎 所　　員（専任）：宇　高　京　子 （兼任）：藤　本　や　す （兼任）：宮　崎　照　子 事　務　長：山　口　　功 書　記　補（専任）：木　村　千　鶴
昭和56年度	所　　長：仲　　三　郎 児童学研究部長：山　内　昭　道 栄養学研究部長：草　間　正　男 服飾美術学研究部長：仲　　三　郎 所　　員（専任）：宇　高　京　子（56. 4. 1～57. 3. 31までアメリカ留学） （兼任）：藤　本　や　す （兼任）：宮　崎　照　子 （兼任）：白　鳥　つや子 事　務　長：山　口　　功 書　記　補（専任）：鈴　鹿　安紀子
昭和57年度	所　　長：仲　　三　郎 児童学研究部長：山　内　昭　道 栄養学研究部長：吉　野　梅　夫 服飾美術学研究部長：高　橋　　剛 所　　員（専任）：宇　高　京　子 （兼任）：藤　本　や　す （兼任）：宮　崎　照　子 事　務　長：山　口　　功 書　記　補（専任）：鈴　鹿　安紀子
昭和58年度	所　　長：仲　　三　郎 児童学研究部長：山　内　昭　道 栄養学研究部長：吉　野　梅　夫 服飾美術学研究部長：高　橋　　剛 所　　員（専任）：宇　高　京　子 （兼任）：卜　部　澄　子 （兼任）：宮　崎　照　子 事　務　長：山　口　　功 書　記　補（専任）：鈴　鹿　安紀子

年　度	氏　　名
昭和59年度	所　　長：金　平　文　二 児童学研究部長：金　平　文　二 栄養学研究部長：吉　野　梅　夫 服飾美術学研究部長：高　橋　　剛 所　　員（専任）：宇　高　京　子 （兼任）：卜　部　澄　子 （兼任）：川　合　貞　子 事　務　長：山　口　　功 事　務　主　任：猪　瀬　鞠　子
昭和60年度	所　　長：金　平　文　二 児童学研究部長：金　平　文　二 栄養学研究部長：吉　野　梅　夫 服飾美術学研究部長：高　橋　　剛 所　　員（専任）：宇　高　京　子 （兼任）：卜　部　澄　子 （兼任）：川　合　貞　子 事　務　長：見　藤　妙　子 事　務　主　任：猪　瀬　鞠　子
昭和61年度	所　　長：木曾山　か　ね 児童学研究部長：金　平　文　二 栄養学研究部長：苫米地　孝之助 服飾美術学研究部長：渡　辺　祐一郎 所　　員（専任）：宇　高　京　子 （兼任）：卜　部　澄　子 （兼任）：川　合　貞　子 事　務　長：見　藤　妙　子 事　務　主　任：猪　瀬　鞠　子

RIDS

正　誤　表

ページ	左右	位　置	誤	正
47	左側	下から 2行目	428/660nm= 1.25	428/660nm= 1.38
48	左側	上から12行目	428/660nm= 1.38	428/660nm= 1.25
52	左側	図　2	 図 2. 紫色系統試料の赤外吸収スペクトル a：①エタノール，②K1004　b：	 図 2. 紫色系統試料の赤外吸収スペクトル a：①エタノール，②K1004　b：
57	左側	上から16行目	生じなかった事柄を	生じなかった事柄について
		下から11行目	見出すのに	見出すのは
58	左側	下から14行目	よみとれが	よみとれるが
59	左側	下から 9行目	このようなもが汚物の	このようなものが汚物の
	右側	上から 7行目	ように，	ように。
62	左側	下から 5行目	スズチバチ	スズメバチ
66	左側	下から11行目	多いくなどによった。	多いなどによった。
写　真	左側	A　蒸　肉	（ 100° C ，10° C ）	（ 100° c 10分 ）
80		上から10行目	成分解性	生分解性
86		下から 8行目	U.S.W	U.S.W.